

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
船橋記念	2019/1/16	SIII	船橋	1000m	ハイペース	良	能力比較、コース適性

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	アポロリュウセイ	牡6	53.5	笹川	ジャイアントレッカー	ノーザン系	タイキシャトル	ヘイロー系	D	B	C	C	C	C		
2	2	クルセイズスピリツ	牡4	55.5	西	サウスヴィグラス	ミスプロ系	パブルガムフェロー	サンデー系	B	C	A	A	A	B	○	
3	3	ユアマイラブ	牡6	53.5	山崎誠	キンシャサノキセキ	サンデー系	トワイニング	ミスプロ系	B	C	C	B	B	B	▲	
4	4	ウエイトアンドシー	セ8	57.5	今野	オレハマッテルゼ	サンデー系	エプロス	ミスプロ系	B	C	B	B	B	B	△1	
5	5	アピア	セ8	57.5	御神本	ファスリエフ	ノーザン系	アグネスタキオン	サンデー系	A	A	A	B	A	B	◎	
6	6	アメリカントップ	牡6	53.5	吉原	Bernardini	ナスルーラ系	Mr. Greeley	ミスプロ系	D	A	D	D	D	D		
	7	ユメノヒト	牝7	51.5	山崎良	サウスヴィグラス	ミスプロ系	アフリート	ミスプロ系	D	C	C	C	C	C		
7	8	ラッキープリンス	牡7	57.5	森	サイレントディール	サンデー系	オペラハウス	ノーザン系	D	A	D	D	D	D		
	9	ジョーオリオン	牡10	57.5	左海	ダイワメジャー	サンデー系	ジェイドロバリー	ミスプロ系	D	B	D	D	D	D		
8	10	ビヨンドボーダーズ	牡4	53.5	山林堂	キンシャサノキセキ	サンデー系	アグネスワールド	ミスプロ系	C	C	B	C	C	B	△2	
	11	ドラゴンゲート	牡7	55.5	横川	メイショウポラー	ヘイロー系	アサティス	ノーザン系	B	C	B	C	B	C	△3	

隊列図	見解	ラップタイム
クルセ ウェイ ドラゴ アポロ アピア ユアマ ユメノ アメリ ビヨン ラッキ ジョー ハイペース	<p>船橋記念といえば、思い起こされるのはやはりナイキマドリードの4連覇。同馬は6歳で船橋記念初勝利を挙げると、その後は毎年勝利を積み重ねて9歳で4連覇の偉業。同条件の習志野きらっとスプリントも合わせると、船橋1000mで重賞5勝を挙げた。ナイキマドリードの例はやや特殊としても、船橋1000mはリピーター色の強いコース。過去に同条件で実績を残している馬は素直に評価した方がいいだろう。今年の船橋記念は能力差がハッキリしており、コース適性の有無も明確。1～3着以内のうち2議席はレース前に決まっている。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命はアピアのただ貴いレースだろう。船橋1000mでは4戦4勝と無類の強さを誇っている馬。今年の習志野きらっとスプリントでは出遅れるロスがあったものの、そこから上手くりカバーを利かして差し切り勝ち。今回は当時より手薄なメンバー、紛れが起きにくい11頭立ての少頭数。ここで負けるシーンを想像するのが難しい。競馬だから何が起こるか分からないとはいえ、ここは確勝級と見ていい。(以下省略)</p>	<p>ラップタイム</p> <p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	アポロリュウセイ		2走前のカムイユカラスプリントでは勝ち馬アピアから1.2秒差の4着と完敗。今回は大半の馬が似たり寄ったりの実績なので、ノーチャンスとはいえないが、健闘しても掲示板までなのは。		
2	2	クルセイズスピリツ	○	今年の習志野きらっとスプリントではスタートからフラットライナーズ、ラディヴィーナと競い合いながら2着に好走。ゲートや二の脚の速さを見ても屈指のスプリンターとってよく、船橋1000mはベスト条件。アピアには分が悪くてもほかの馬に先着を許すことはないだろう。		
3	3	ユアマイラブ	▲	転入初戦のメトロポリタンディセンバーカップでは8着に敗れたが、実績を考えれば、もっと走っていいはず。どうもこれまで454キロ以下【4.0.2.7】、455キロ以上【0.0.0.4】と454キロ以下でしか3着以内に好走したことがなく、前走は464キロと馬体重が重過ぎたのかもしれない。		
4	4	ウェイトアンドシー	△1	スタートの速さからクルセイズスピリツにハナを譲らざるを得ないこと、小久保→水野厩舎の転入で厩舎カダウン、約3ヶ月の休み明け、初の1000m（久しぶりのワンターンでもある）と不安要素がそれなりに揃っている。		
5	5	アピア	◎	船橋1000mでは4戦4勝と無類の強さを誇っている馬。今年の習志野きらっとスプリントでは出遅れるロスがあったものの、そこから上手くりカバリーを利かして差し切り勝ち。今回は当時より手薄なメンバー、紛れが起きにくい11頭立ての少頭数。ここで負けるシーンを想像するのが難しい。		
6	6	アメリカントップ		この血統は走らなくなるとピタッと走らなくなる。53.5キロの軽量で吉原騎手騎乗でもさすがに買えない。		
	7	ユメノヒト		2走前に同条件で2着に好走しているが、B3C1のクラスでの話。ここで上位争いするには時計を1〜2秒近く詰める必要がある。		
7	8	ラッキープリンス		意外性があり、4走前の多摩川オープンの激走にはビックリしたが、近走はほとんどがニクダ着順。1000mで好走するイメージが全く湧かない。		
	9	ジョーオリオン		昨年の習志野きらっとスプリントでは勝ち馬アピアから1.3秒差の8着。大きな差があったわけではないが、後方から運んでバテた馬を交わしただけのレース。今回もレース自体には参加できないだろう。		
8	10	ビヨンドボーダーズ	△2	デビュー以来、1600m以下のレースでは【4.3.1.1】と大崩れなく走っている馬。キンシャサノキセキ×アグネスワールドの血統なら本質的に短距離馬の可能性があり、2走前の勝ちっぷりも良かったので、軽量53.5キロなら一枚押さえておく価値はあるか。		
	11	ドラゴンゲート	△3	10ヶ月近い休み明けでどこまで走れるか未知数もJRA時代の実績を考えれば、即通用していいはず。ただ鞍上が横川騎手。陣営の本気度はやや低いかもしれない。		